

ゆきぎのみち

日本古神
道研究会

皇紀二六六二年十月一日 一日祭直会より

『神道講座開設に向けて』

十月一日の御祭りにおきまして、御祭りの一番の基本となる部分と、神道の講座を開設する際に根幹となるお伝えを頂きました。神様仏様を求めておられる方、中でも神様に是非直接お会いしたい、お声を聞きたいという方には必須の基盤となる内容です。

また、一般の方にも、人生訓として照らし合わせることでできるお伝えです。基本を守り、確実に、そして段階を追って進めていく、役割を確実に全うするなど、学び、そして独り立ちをし、人生の道を開いていくにあたって、見落としがちで重要なことを学び取って下さい。

お米とお水とお塩
が揃うこと

師 今日御祭りの祝詞奏上の際に、柏手を打ったところで止まってしまうでしょう。下からでは見えない。長三方に御水器が上がっているから、御神水が入っているとと思うんだけど、大神様から『お水が入っていない、水があがっていない』と出られたのです。だから止まったのです。

吉田洋子様 この度、御神水につきまして、大変な失礼があったということ御神水を頂けなくなってしまったと伺いまして、以前も一度止まった時に、お水玉にお入れしなかった事があったので、それに準じた形なのかということ、勝手な判断をしてしまひまして、申し訳ありませんでした。

師 でも不思議でしょう。いざ祝詞を奏上しようと思っても、大神様からストップが掛かるんだからね。『米・水・塩が揃わないと御祭りにはならぬ』と言われたのですよ。私としては「水器があがっているんだけど、中身はどうなのかなあ」と思ったけれど、確認したら、ストップになったということやはり入っていないかった。

吉田洋子様 私も「これでは三種の神器が揃わないのだけれど、どうすればよいのだろう」という思いはずーっとあったのですが、やはりキチツと揃っていないといけないのですね。

師 やはりこちらが正しく行わないとね。各御家庭にだって、「こうするのですよ」と言って差し上げられないじゃないですか。ここでこうしてストップがかかるということは、各ご家庭で神様の神棚にされる時も、やはり、「お米とお塩とお水が揃ってはじめて御祭りになるんですよ」ということです。それが揃っていないのに形だけ整えて拜んでみたところで、人の側の勝手を振る舞いになるだけですからね。神様からご覧になれば御祭りにはならないことになりませぬ。

学ばせて頂ける者として

こういうことも、一つ一つご注意を受けているようだけれど、その一つ一つで、神様から相当に学ばせて頂いているのですね。だから、そのことを沢山の方にお知らせしてあげないといけない。「御祭りをする時には、米・塩・水は欠かしてはいけないんですよ」ということもそうです。それがあって初めてプラスチックは結構ですということになる。たとえ、どんなに鯛を供えようと、果物を供えようと、お神酒を供えようと、お米とお塩とお水がなければ、御祭りにはならないのだという事です。

皆さんは色々な事を学んで欲しい。何時も言うけれどもこちらのご神前に立った時には必ず大神様が話し掛けて来られるのです。ですから、こちらで勝手に「時間なのでお願い致します」と言ってお手を打って、祝詞を奏上しようと思っても、大神様の方から『水が無い。米・塩・水の三つが揃わないと、御祭りにはならぬぞ』というお言葉がかかるのですからね。知らないのならともかくとして、実際にこう言われると、やはりその様にしないといけないでしょう。そうでないと、形だけになるということですね。

ご神前に立った時は常に大神様は出ておられるのです。そうであれば私に判るわけが無いですからね。お棚の下からは見ええないのですから。ちゃんとご水器はあるのだし、普通に考えたら、お水も入っていると思うものね。やはり、大事なのは神様に受け取って頂けるかどうか、神様が『このようにせよ』と言って下さるかどうですか。皆さんから見れば、「先生がしてくれればいい

のに」と思っても、神様がウンと言って下さらないのに形だけでも仕様が無いのですね。

その時神様に通ずる様に

大事なのは本当にその瞬間なのですよ。家永さんのお兄さんの場合も、交通事故なのですよね。

目黒様 会社からの帰りの際に、自転車に乗っていて転げられたということですよ。

師 「普通は肩の骨が前の方へ行って脱臼するということですけれども、逆に後ろ側へ骨折した。それで、この場合は軟骨がなかなかくっ付かないだろうし、手術が必要だろう。それも全身麻酔の大手術をして、軟骨がくっつくように人工のものを埋め込むが、それでもくっつくとは言えないとお医者さんに言われた」と連絡があったのです。

だから、「軟骨がくっ付くように」ということでお願いをしたのですね。そうしたら、「手術をしなくてもくっつくのではないか」ということになり、今は軟骨がくっついていてほしいのです。最初は「大手術になる」と言ってきたけれど、今は、「全く手術は要らない」と言っている。だからその瞬間が大事なんですね。それでも最初の連絡があつてから半日以上その後の報告がなかった。だからもっと報告が早いと完全にその場で治ったと思います。

朝に連絡を貰って夕刻まで状況が掴めなかったということでの報告がなかった。報告があつた分に対しては、大神様にお願ひしておいたのですがね。野村さんのご主人の場合も、報告を受け

て最初に大神様をお願いした時が勝負なんですけど、それをした時に、「ああ、これでもう大丈夫だよ」となった。そうなればそれでもう大丈夫なのです。要するに、大神様がウンと言って下されば大丈夫なのです。大神様が首を傾げるか、拒否するかという、大きく分ければこの三つで判断できるわけだけども、「ああ、もう大丈夫だよ」と言えれば大丈夫なのです。大神様がウンと言って下されば「もう大丈夫です」と言えるのです。

しかし、これは何も大神様が「この者の願い事は即叶えてやれ」とか「この者の言う事は聞かなくてよい」とか臆盾をして対応しておられるということではないのです。全てをご存知の上で、判断しておられるのです。逆に言えば、神の子である人の願い事ですから、全て『良し』としてあげたい。

大切なことは「相応の理」と言って、日常にどのくらい神様にご自分の気持ちに向いているか、そして、願い事をするその時に、どのくらい謙虚かつ真剣にお願いしているかに相応するのです。私が念を送った時に「もう大丈夫」と言えば、高熱がある子供さんでも念送りの直後に「お腹がすいた」と今まで寝ていた部屋から出て来てあつという間に元気になります。

「念を送るから様子を見て下さい」という時には、その後の様子を報告していくことによって良くなっていきます。さらに、「念は送る：：けどね」という時があります。「けどね」の時は残念ながら、助からない場合が多いのです。

例えば、こちらにご縁のある方の遠縁の人の時には、事故にあったご本人が今まで一度も神仏に手を合わせたこともなくて、さ

らに意識不明になってから一週間も過ぎてから連絡が来たのです。念送りの時には、このことを知りませんでした。その瞬間に「念は送る：：けどね」という言葉になりました。

それと、ご本人でなくても、家族の人などが、「私にとってかけがえのない大切な夫であり、子供たちの父なのでどうかお願いします」という気持ちでお願いしてくる時と、「散々、身勝手なことをしたんだから自業自得よ。でも死なれたり、寝こまれたら大変だからお願いします」と思っている時でも違うのです。

こういうお話をしますと、口先だけ「かけがえのない人です」と皆さんは覚えた通りを言ってくる人が多いのですが、本心からそう思うということが決め手なのです。神様は『われが受け取るのは真心のみ』と言われますのでね。人の世界では、口先三寸とこういうように口先で言うことと腹の中が全く違っていることが当たり前になっていくせいとか、神様の前にも平気で心にもないことを言う人がいます。そういう時はこちらにその都度その方の本心を神様が映されるので、本当に困ってしまいます。

ですから逆に、例えば普段から「世の中の為に」とか「人の為に」と一生懸命にしておられる方であれば、『人類は全てわが子。その人に対して尽くしてくれる者のことは神もまた万全を尽くすぞ』として頂けます。

神様に会える 人になれる

その辺のコツを、皆さん自身にも早く受け取って欲しい。そして、御霊入れ者の方は早く神様と直接会っ